

2014年度 商社の環境保全活動

日本貿易会法人正会員が、社会貢献活動や国民運動につながる啓発活動の一環として、また、オフィス業務や事業活動として取り組んでいる環境保全活動について、各社資料から、とりまとめた。

1. 事業活動を通じた環境貢献

ユアサ商事 釧路川ソーラーパーク

2014年7月1日、国内2ヵ所目となる太陽光発電のテストプラント「ユアサ商事釧路川ソーラーパーク」の運転を開始した。本発電所は北海道釧路市内の自社所有地1万6,500㎡に設置し、最大出力規模が810kW、年間予想発電量が96万kWh（一般家庭約260世帯分の年間使用電力量に相当する規模）になる。積雪・寒冷地に再生可能エネルギーを普及させていくためのテストプラントとして建設したものであり、今後は積雪・寒冷地における発電量や設備・機器への影響を検証していく。

2. 環境問題への理解促進

伊藤忠丸紅鉄鋼 環境講演会

2014年6月24日、役員および社員約30人が参加し、東北大学の石田秀輝名誉教授を講師として、環境講演会を開催した。限られた資源の中で心豊かに暮らすとはどういうことなのか等、科学的に分かりやすく解説された。2009年から毎年6月を「MISI環境月間」と

定め、環境について考える期間と位置付けており、この講演会はその一環として開催した。

ネイチャーテクノロジーの第一人者である講師は、バックキャスト思考への転換が必要との自説をユーモアも交えて話された。参加者からは、「新鮮かつ自分・ライフスタイルを見つめ直す機会となった」等の感想があった。

伊藤忠商事 子どもたちのための夏休み環境教室

「夏休み環境教室」は、近隣や社員の子を対象に、CSR活動の一環として1992年から開催している。2014年8月6日も、43人の



子どもたちのための夏休み環境教室（伊藤忠商事提供）

小学生が参加した。

今回は学研科学創造研究所の協力を得て、「学研のエジソン」こと湯本博文所長による科学実験ショーや工作教室「発電ヘリコプターを作ろう」を行った。参加者からは、「実験が分かりやすくとても楽しかった」等の感想があった。その後、ギャラリー「伊藤忠青山アートスクエア」にて、「世界環境写真展」特別イベントである、小学生向けのトークショーにも参加し、オランウータンやパンダ等世界の絶滅危惧種等について勉強し、充実した一日となった。

三井物産「サス学」アカデミー

2014年12月11 - 13日、「三井物産の森」をテーマとしたブースを「エコプロダクツ2014」に出展した。丸太切り体験と持続可能（サステナブル）な未来を創る力を育むための学び、「サス学」アカデミー『キヅカイで未来をかえよう!』を実施したところ、小学高学年を中心に、延べ約300人の来訪があった。森の仕事や林業の現状を知り、「木を使う



「サス学」アカデミー（三井物産提供）

こと＝木づかいの大切さ」を学んだ後、持続可能な未来に向けての「キヅカイ（木づかい）」のアイデアを次々と書き出した。参加者からは、「自然を大切にする＝木を使わないと思っていた子どもも多く、考え方を覚えてもらった」等の感想があった。

帝人フロンティア ベトナムにおける労務関連セミナー

2014年12月18日、ベトナム・ホーチミン市にて、「ベトナムにおける労務関連セミナー」を初開催した。本セミナーは、「CSR調達戦略



ベトナムにおける労務関連セミナー（帝人フロンティア提供）

プロジェクト」の一環として、ベトナム労働省等の協力を受け、実施した。

現地の工場・取引先の15社34人が参加し、「サプライチェーンにおけるCSR調達の重要性」や、「ベトナムでの労働法等のプレゼンテーションおよび労務監査について」等の講演を行ったところ、各所からお褒めの言葉を頂いた。今後もこのような機会を設け、リスクマネジメント活動を推進していきたい。

三菱商事 第56回丸の内市民環境フォーラム

2月4日、丸ビル1階マルキューブにて「第56回丸の内市民環境フォーラム」を開催した。

このフォーラムは、社会を取り巻く環境問題をテーマに1993年から開催している講演会で、今回は、「パリ・ダカールラリー」で2度の総合優勝を果たしたラリードライバーの増岡浩氏を講師に迎え、過酷な山岳レースの様子や電気自動車が担うこれからの環境への配慮等についてのお話を伺った。



第56回「丸の内市民環境フォーラム」(三菱商事提供)

会場には、本物のレーシングカーをはじめ、増岡氏が使用したヘルメットやグローブ等貴重なアイテムも展示。参加者からは「運転技術、エコドライブの話が参考になった」「レーシングカーを間近に見て感動した」等の感想があった。

岩谷産業 イワタニ水素エネルギーフォーラム

2月12日に大阪、3月5日に東京において、「第9回イワタニ水素エネルギーフォーラム」を開催した。大阪・東京会場とも2015年「水素元年」スタート!をテーマに、意見交換を行った。民間企業・大学・行政・NPO等幅広い分野から、大阪会場には705人、東京会場には829人が参加し、燃料電池車「MIRAI(ミライ)」が一般販売されたことで、水素社会への幕開けを実感している方々が多いことを認識するフォーラムとなった。

今後とも、多くの方々との幅広い情報交換や交流を深めるべく、さらに充実した内容で本フォーラムの継続開催を目指していきたい。



イワタニ水素エネルギーフォーラム(岩谷産業提供)

3. 地域における環境保全活動

スマイル 地域清掃活動

スマイルでは、江東区が主催する地域清掃活動「わがまち江東・月いちアダプトプログラム」に社員が参加し、本社のあるJR潮見駅周辺の道路等を2014年度に毎月1回、清掃活動を行った。

森村商事 オフィス街ロードクリーン2014

2014年8月5日、環境分野における社会貢献活動として、国土交通省主催の「オフィス街ロードクリーン2014」へ社員25人が参加し、霞が関一帯で歩道の清掃を行った。全体では1,000人超が参加し、総延長9,930mの歩道から約5.0㎡のゴミを回収した。

参加者は、朝早くから出勤し、暑い中、植込みの落ち葉を拾ったり、タバコの吸い殻等を拾い集める等、気持ちの良い汗を流した。

丸紅 第9回奥多摩間伐

丸紅は2006年から「青梅上成木保全地区」で間伐活動を継続的に実施している。この活



第9回奥多摩間伐（丸紅提供）

動は、東京都・NPO法人と連携し、地元との協力の下、実施している。活動当初は、日当たりが悪く荒地が多かったが、少しずつ緑が増えてきている。2014年は10月4日に社員およびグループ会社社員とその家族・友人50人が参加し、間伐や道づくりを実施した。今後、スギ・ヒノキといった針葉樹ばかりの森に広葉樹を増やすことも目標に、2015年も10月3日に実施する予定。

参加者からは「自然の大切さ、ありがたさを実感できた」「普段気付かない環境問題を知るきっかけになった」等の感想があった。

阪和興業 大阪本社周辺清掃活動

大阪本社では環境保全活動の一環として、毎年、本社ビル周辺の清掃活動を春と秋に実施している。2014年10月23日、大阪市主催の活動に参加する形で、清掃活動を実施した。大阪本社社員32人が一般ゴミ1.24kg、缶0.14kg、ペットボトル0.18kg、吸い殻0.14kgを回収した。

参加者からは、「タバコの吸い殻が思ったより多く喫煙者のモラルが低い」「街がきれいになり気持ち良い」という感想があった。清掃活動を継続することにより、地域活動の一貫と



大阪本社周辺清掃活動
（阪和興業提供）



中央区ウォークラリー&クリーンアップ作戦（長瀬産業提供）

いう意識の芽生えとともに社員の環境保全活動への意識向上へつながることを期待している。

豊田通商 大阪マラソンクリーンUP作戦

2014年10月26日、社員およびグループ会社社員49人が参加し、大阪市の御堂筋かいわいを清掃した。本活動は、「大阪マラソン」とタイアップし、マラソンで来阪する方々をきれいな街で迎える趣旨で行っており、出勤前の時間を活用して、地域ごとに担当するメンバーがゴミを拾った。

参加者からは「朝早くに起きての清掃活動



大阪マラソンクリーンUP作戦（豊田通商提供）

は気持ちが良い」「汚れていない場所には、ポイ捨てが少ない」等の感想があった。今後も清潔で美しい街づくりに力を注いでいく。

長瀬産業 中央区ウォークラリー&クリーンアップ作戦

2014年11月15日、中央区社会貢献企業連絡会（中央ぶらねっと）主催の「中央区ウォークラリー&クリーンアップ作戦」へ社員6人が参加し、中央区内の名所を巡りながらゴミ清掃活動を行った。長瀬産業は、幹事会社として企画段階から参画し、当日の全参加者65人がゴミ合計60kgを収集した。

参加者からは「素晴らしいコース設定で、距離もちょうどよく、楽しく清掃活動を行うことができた」との感想があり、アンケートではまた参加したいとの回答が100%であった。今後も、中央ぶらねっとの活動を通じて、社会貢献活動を行いたい。

兼松 被災地で環境保全ボランティア活動

2014年11月、グループ会社役員および社員19人が岩手県陸前高田市の広田町「黒崎神社」



被災地で環境保全ボランティア活動（兼松提供）

境内で御神木である「タブの木」の保護活動を行った。神社で鎮守の杜として使われている、とても大切な木である。山の斜面に芽を出している苗木を一本ずつ掘り起こし、園芸用のカップに移動させる。採取した苗木は一度、横浜の大学に送られて育成してから、再び陸前高田市に戻されて海岸線に植樹する予定になっている。

参加者からは、「人は『自然に生かされている』とあらためて感じた」「人手が足りず、手入れが行き届いていなかった」等の感想が寄せられた。

メタルワン 第17回大阪支社環境ボランティア

2014年12月7日、大阪支社ならびに近隣グループ会社社員とその家族41人が参加し、大阪市淀川河川敷右岸（十三野草地区～西中島地区）を清掃した。分別回収して、20袋を回収した。

本活動は、企業理念にうたわれる「地球市民」を具現化する活動として位置付けており、循環型社会へ寄与し、地域の美化や環境保全を考える上で大きな意義があった。今後も社会貢献活動の輪を広げ、環境保全の重要性の啓蒙活動を行っていく。参加者からは「草むらにも意外にゴミが多かったが、ちょっとは社会の役に立ったと感じた」等の感想があった。

日立ハイテクノロジーズ 本社ビル近隣清掃活動

1月20日、社員およびグループ会社社員53人が、本社ビルから日比谷通り（新橋駅方面）と桜田通り（虎ノ門駅方面）までの外周距離約1.5kmを清掃し、合計10.2kgのゴミを回収



第17回大阪支社環境ボランティア（メタルワン提供）



本社ビル近隣清掃活動（日立ハイテクノロジーズ提供）

した。主なゴミは、タバコの吸い殻、紙くず、ペットボトル、瓶、缶等だった。

参加者から「ゴミを拾い『キレイ』にしたという充実感が得られた」「参加者の一体感が得られた」との感想があり、環境美化意識の向上につながる活動となった。今後も、地域コミュニティーの一員として、本活動を継続的に実施していく。

双日 ランチタイム清掃ボランティア

2月20日のランチタイムに、グループ会社含め社員15人が参加し、日比谷公園・飯野ビルディング周辺の清掃活動を行った。本活動は、同じビル入居企業と共同活動する



ランチタイム清掃ボランティア（双日提供）

ことで、地域貢献の度合いを高めること、他社員同士の交流をきっかけに、社員の社会貢献活動への積極的な参加を促すことを目的としている。

参加者からは「今後も継続してほしい」「地域社会への貢献を通じて組織・グループの結束も高められたらよい」等の感想があった。今後、社員が身近な社会貢献活動に参加し、興味を持てるようにしたい。

住友商事 京・伏見桃山MOMO Terrace

「桃の木」植樹活動

3月29日、住友商事グループが開発運営を行う京都市伏見区商業施設MOMO Terraceにおいて、地元保育園の園児はじめ約60人を招き桃の木の植樹活動を行った。同商業施設が立地する伏見桃山町は江戸時代に廃城となった伏見城の跡に桃の木が植林され、桃の名所になったことが町名の由来といわれている。本活動は伏見桃山を再び桃源郷にすべく活動している地元のNPO団体「桃山プロジェクト」と協働で開催。地域社会に根差した緑化活動を行っている。



京・伏見桃山MOMO Terrace「桃の木」植樹活動（住友商事提供）